

# 大鹿村中央構造線博物館たより 105号



2018年2月発行  
TEL/FAX:(0265)39-2205 E-MAIL:mtl-muse@osk.janis.or.jp

## 西方見聞録「世界はこんなふうだった」 西チベット文化圏編を開催しました

鹿塩在住の伊東一郎さんによる解説付き諸外国写真上映会、今年は西チベット文化圏編ということで、2016年のラダック・ザンスカール旅行の写真、1990年の西チベット旅行の写真を、1/7(日)、21(日)の2日間にわけて、上映いただきました。今年は昼食を挟んで午前と午後2時間ずつの上映となり、一日中おられる方、午前だけ、午後だけ来られる方など様々でしたが、終始、興味深い写真の連続でした。この紙面上では、白黒になってしまうのですが、伊東さんからお借りしたラダック・ザンスカールの写真を何枚か掲載したいと思います。ラダック・ザンスカール地方とは、インド北西部、ヒマラヤ山脈とカラコルム山脈の間を流れるインダス川源流域に位置し、チベット文化を色濃く残す標高3500メートル程の地をいいます。

写真1左上の岩肌へへばりつくように造られているのは、チベット仏教僧院で、「ゴンパ」と呼ばれているそうです。ゴンパは、町や農地の広がる平地ではなく、山すその岩場や小高い丘に建てられています。写真1右下に並んでいる白い建造物は、仏塔で、「チョルテン」と呼ばれているそうです。「チョルテン」はもともと仏様の遺灰を納めているものだったようですが、現在は無数に建てられており、中に何が入っているか不明のようです。

写真2は、チベット仏教で用いられる仏具で「マニ車」というものだそうです。内部にロール状の経文きょうもんが納められており、筒をまわすと経を読んだことになるのだそうです。



写真1 ゴンパとチョルテン



写真2 マニ車

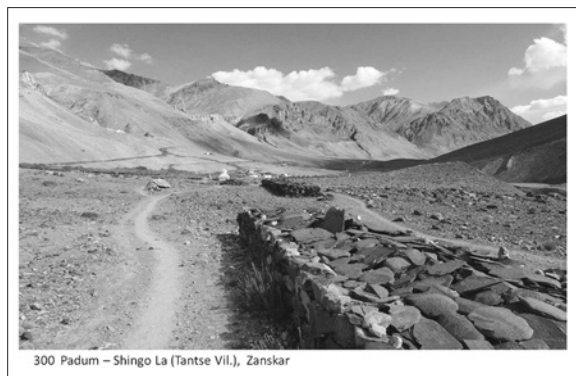


写真3 マニ塚



写真4 タルチョ

写真3は、マニ塚というもので、マニ石というお経が書かれた石を沢山積み上げているものだそうです。

写真4は、チベット仏教の経文が印字された五色の旗で、「タルチョ」と呼ばれており、タルチョがはためくと経文を読んだことになるのだそうです。色は、青、白、赤、緑、黄の順に決まっていて、それぞれが天・風・火・水・地をあらわしているのだそうです。

写真5は、干し草を運ぶ人たちです。干し草は、冬に家畜のえさにするために、たくさん蓄えておく必要があるようです。写真6手前に家畜のヤクがうつっています。写真6では、壁の上や屋根の上に、干し草に加えて、燃料にするための牛糞を積んで乾かしているのが見えます。この地域では厳しい冬を乗り切るために、燃料は不可欠です。



写真5 干草を運ぶ人たち



写真6 屋根で干し草と牛糞を乾燥中

写真7は、崖のすぐ下に集落があるように見え、危険を感じますが、斜面に落石防止の砂防工事をしてあるようです。工事といっても、おそらく人力で、地元にあるもので作っているのではないかと思います。

写真8は、車が通れるほどの幅の道路が整備されている様子です。今はまだ、歩いて通行している人ばかりのようです。写真8の右端を流れる沢が道路を横切る場所では、沢の水量が多くて徒歩でも通れない状態だったそうで、道を外れて、沢の下流の方に下ると、何とか渡れるところが見つかり、伊東さんはそこを渡ったそうです。将来、車が通行できるようになるまで、今しばらく時間がかかりそうですが、車が出入りするようになったら、一気に観光地化が進み、現在の景色は一変してしまうかもしれません。



写真7 斜面に落石防止の工事が施されている

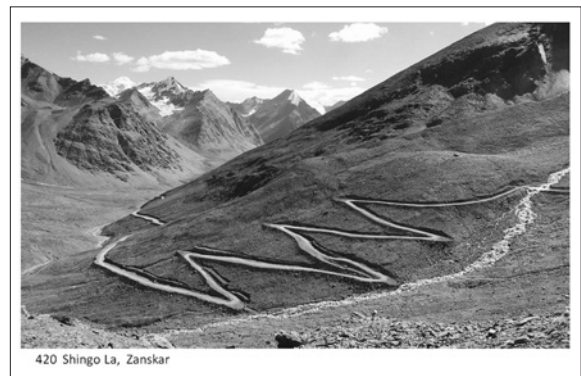


写真8 車道建設中

今回で3回目の「西方見聞録」ですが、来年は引き続き、「中央アジア」編を計画中です。どうぞご期待ください。また、最後に宣伝となりますが、伊東一郎さんは、電子写真集「世界写真の旅」シリーズをAMAZONにて販売中ですので、もっといろいろ写真を見たいという方は、よろしければご購入ください。(宮崎)